

問題1 本文を300字以内で要約しなさい。(45点)

遅読のよさのひとつは「考える」ことを伴うところである。遅読では一文一文と向き合う時間が自然に生まれる。遅読は人生を支えてくれる言葉を自分の中に増やしていくことができる読み方である。最近では、対話型の生成AIを使うことで単なる検索以上のことができるようになってきている。大事なのはAIが出してくるアイデアをそのまま使わずに自らの考えを発展させていく材料にすることである。本を読みながら思考する時間がAIとの対話でも生きてくる。AIの活用でも「読書の力」が土台になっている。もうひとつ、読書によって果たせるのが「人格との出会い」である。遅読によってさまざまな人生観や世界観に直に触れることができる。

問題2 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字は読みがなを書きなさい。(6点×5=30点)

- ① こうい    ② はってん    ③ 象徴    ④ 精度    ⑤ 濃密

問題3 本文の中で説明されている遅読によって磨かれる「力」とは何か、「○○力」というように「力」で終わる三字熟語を1つ書きなさい。ただし、すでに文中に三字熟語で示されている「持久力」「表現力」は除く。(10点)

「思考力」、「想像力」、「記憶力」、「創造力」、「読解力」

問題4 「入学試験」をテーマに、短歌を一句詠みなさい(短歌の形式は定型の音節を用いること)。(20点)

○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○○

(五・七・五・七・七：31音)

問題5 二重線部について、AI時代だからこそ、自分が大切にしたいことについて、例を挙げて400字以内で記述しなさい。(45点)

〈加点〉

- ・例を挙げ、具体性がある。
- ・内容(考え)の一貫性、妥当性がある。
- ・内容(考え)に論理性がある。
- ・文章表現が適切で読みやすい。
- ・その他、字数や表記方法、原稿用紙の使い方が正しい。

【出題の意図】

昨今、ChatGPTのような対話型の生成AIを使うことで、単なる検索以上のことができるようになってきているが、AIが出してくるアイデアをそのまま使うのではなく、「自分だったらこう表現する」と、自らの考えを発展させていくことの重要性について述べられた題材である。

本題材を通して、AI時代だからこそ大切なことは何かについて受験生に問うことにより、本学のアドミッションポリシーにおける「求める学生像」の一つ、「自らの力で考え、意見を述べ、責任をもって行動できる」学生であるかを判断する意図がある。